

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902546		
法人名	有限会社ノースランド企画		
事業所名	グループホーム春光		
所在地	旭川市春光5条6丁目5-20		
自己評価作成日	令和6年3月21日	評価結果市町村受理日	令和6年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvnoCd=0172902546-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和6年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム春光は、旭川市の中心部から5～6キロ程の、閑静な住宅街に位置し、近隣には井上靖記念館や彫刻記念館が建つ春光園と言う緑豊かな公園があり、散策する子供から大人まで憩いの場となっています。保育園、幼稚園、小学校も近く、遊園、通学時には、子供さんたちの元気な声が入居者さんたちを元気づけてくれています。
バス停も近く、コンビニは3店舗、郵便局、銀行、ピザ屋も有り快適に生活しています。医療法人との提携で、毎日の健康管理は基より、体調不良時や急変時には、迅速な対応により安心して毎日を送っています。
自作の庭では、季節の花は勿論、トマトや枝豆、ブドウがたくさん実り、入居者様の楽しみとなっています。
職員は、勤続10年以上のキャリアが有り、介護福祉士やケアマネージャーの資格を持って居ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川市郊外の閑静な住宅地にある、1ユニットのグループホームである。建物は2階建て、1階が当事業所と元デイサービスのスペース、2階が有料老人ホームとなっている。事業所の斜め向かいに広い公園があり、公園に隣接して井上靖記念館や彫刻美術館があるなど住環境に優れている。共用空間内は窓が大きくて明るく、同一フロアの元のデイサービスの場所も活用してレクリエーションなどを行っている。法人が市内で3か所のグループホームを運営しており、法人内の協力・連携が良好である。また、長く安定的に勤めている職員が多いのも特長である。家族への情報提供では、毎月利用者ごとに写真を載せた手作り感のあるお便りを作成し、家族に送付している。受診支援の面では、協力医療機関による往診体制が整い、看護師による健康管理も行われている。食事は、通常の献立の他に鍋パーティーやジギスカンにしたり、事業所の畑でとれた野菜なども食卓に上がっている。入浴支援の面では、元のデイサービスの浴室も活用し、入浴日には介助する人員を増やして、ゆっくりと入浴を楽しめるようにしている。外出支援では、感染症の状況を見ながら徐々に外出を増やしている。良好な住環境と整った医療支援体制のもと、安心して過ごすことのできるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は毎朝の引継ぎの時に、理念の復唱をして実践に心がけている。	運営理念とケア理念があり、ケア理念の中に「地域の中で共に生活できる」という文言を掲げ、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとしている。理念を掲示し、毎朝の申し送り時に唱和している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して、地域の行事に参加したり、施設の行事にも参加を案内することが有るが、コロナの影響で、自粛がちになっている。	以前は町内会のお祭りに参加していたが、感染症対策のため現在は参加していない。散歩の際に住民と挨拶を交わしたり、町内のコンサートを見に行くことはできている。今年は利用者と町内清掃に参加する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して伝える様にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して活動内容を報告し、入居者の状態や表情を見て頂いたり、感想やご意見をお伺いして、活用出来る様にこころ掛けている。	感染症対策のため、運営推進会議を開催できていない。	運営推進会議の2か月ごとの開催、実際に集まった会議が難しい場合は書面による開催を期待したい。開催にあたっては、報告事項の他に計画的にテーマを設け、テーマに関する意見交換も行うことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	申請時や書類提出時にわからない事を訊いたり、アドバイスをお願いしている。	市役所には各種の書類を作成・提出する際に助言を得ている。地域包括支援センターとは、施設の空き情報や講習会について情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束と思われる行為は無いと思うが、日頃から気を付けて行こうと話あっている。	身体拘束を行っておらず、3か月ごとの委員会と年2回の研修を行っている。委員会にほとんどの職員が出席し、具体的な禁止事項を確認している。玄関は日中施錠しているが、利用者の外出希望を察知した場合は同行している。ユニットから玄関ホールや元のデイサービスのスペースに自由に行くことができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	研修やテレビのニュース等で、見聞きすることがあり実際に経験したことが有る入居者屋が家族から話を聞いたことも有るので、絶対にしないと誓っている。		

グループホーム春光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時には、支援出来る様に、資料に目を通す程度で現実味がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけて説明し同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には、日頃の様子を伝えるとともに、ご要望などをお伺いして、出来るだけ添える様に努めている。	家族の来訪時や電話をした際に意見を聞き、得られた意見を連絡ノートに記入し共有している。また、毎月利用者ごとに写真を載せたお便りを作成し、家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見を出し、話し合いをして、繁栄出来る様に努めている。	月1回ミーティングがあり職員同士活発に意見交換している。年2回、管理者と職員の面談を行っている。安定して長く勤める職員が多い。職員は消耗品やオムツの在庫管理、行事、室内装飾などの役割を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一年に1度人事考課表を記入し、管理者、代表者が面談を行い、評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、各自が積極的に受講するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内の別の事業所や地域の同業者と交流する機会はありますが、コロナの影響で自粛傾向にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学や面談で、ご本人の希望や要望を伺い職員間で情報を共有し、安心して生活出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同様に何度でも説明をして、解決に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族に必要と思われるサービスについて、知りうる限りの説明をするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き、オンボリ置、リネン交換、掃除など、出来る事を出来る範囲で協力し合っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで、ホームでの様子をお知らせして、来訪時には共に過ごす時間を作り、情報の共有を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご協力を頂きながら、外出や来訪の機会を作り支援している。	以前は利用者に友人や知人が来訪していたが現在は来ていない。友人から手紙が来た際に自分で返事を作成している方や、携帯電話を持ち友人に電話をしている方もいる。家族と一緒に墓参りや親戚の家に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクレーション等で交流を図ったりごはん人の希望も考慮して、円滑な人間関係を作る様に心がけている。		

グループホーム春光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は、殆どの場合亡くなる事で、居室のかたづけや遺品の整理等を支援している。ご家族からは、後日不要になった衣類等をご寄附頂いて、ウエス等で利用させてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族から、希望や意を聞き取り、可能な限り添う様にしているが、添いかねる場合でも、話し合いでご理解を得る様に心がけている	8割以上の方が言葉で思いや意向を表現でき、難しい方も問いかけの反応や表情から把握している。センター方式のアセスメントシートを作成することとしているが、記載が少ない。	センター方式の特に「B-2」「B-3」シートを整備し、生活歴や趣味・嗜好について重点的に把握することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の雑談の中から、生活歴や今までの暮らし方などを聞き取り、サービス内容と照らし合わせて活用出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や、その日の表情、言動により現状の把握に努め、その後のケアに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の一日の流れを表に表し、課題を検討して、ケアプランに活かしている。	介護計画を4か月～6か月で更新している。計画のモニタリング欄を活用することとしているが、活用されておらず、見直し時の会議録も作成されていない。日々の記録は計画目標に沿った記録が行えていない。	毎月および計画見直し時のモニタリングの実施と、計画見直し時の会議録の作成を期待したい。日々の記録は、計画目標の番号などを示し支援内容や利用者の様子を記載することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や引継ぎ、ミーティング等で前項の表を利用して職員間での情報の共有をしながら実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問介護や提携病院の送迎等、負担無く病院の受診が出来る。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園やコンビニを活用手運動や散歩等希望に添う様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望をお伺いしてかかりつけ医を確認、連携を取りながら希望する医療機関を受診出来る様援助している。	全利用者が協力医療機関による往診を月2回程度受診している。他の病院への通院は家族または事業所が支援している。往診分の受診内容をタブレット端末に入力しているが、通院分の受診記録は作成していない。	通院分の受診内容についても、受診記録の作成またはタブレット端末への入力を期待したい。

グループホーム春光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子を伝え、気が付いたことや特変があった時は、情報を細かく伝え、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報交換を行い関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合いを行い、説明しながら方針を共有している。看取りの支援が有り、看取りについて、ご家族の意向確認書に記入して頂いている。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意書を得ている。現在は当事業所では看取りを行わず、重度化した場合は医療機関や法人内の他の事業所にスムーズに移れるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命救急の指導を受けており応急処置や初期タイプの訓練を実践に向けて心がけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の後、年に2回自衛消防訓練を実施しており、町内会や地域の方にご協力をお願いしている。	今年度は日中を想定した避難訓練を1回行った。職員の救急救命訓練は行っていない。地震等、火災以外の災害に対する対応の確認などは行っていない。	①消防や地域の協力を得て年2回の昼夜を想定した避難訓練の実施。②各職員3年に1回程度の救急救命訓練の受講。③地震発生時の初期対応や危険個所の有無、ケア場面別の対応などの定期的な確認。以上の3点を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や個性、プライバシーを尊重するよう心がけ、その人に合った対応が出来る様に努めている。	身体拘束委員会で言葉かけを学び、利用者は「さん」づけで呼びかけている。申し送りはアルファベットを使用し、記録類は適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を受け止め、自己表現、自己決定が出来る様対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望に添って生活出来る様に支援する事を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を取り入れたたり、職員がアドバイスしたりして、おしゃれを楽しんでもらっている。		

グループホーム春光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホットケーキ、桜餅、蓬もち等を一緒に作ったり、ジーンズカンパニーや鍋パーティ等を楽しんでいる。	食事は、朝食と昼夜のご飯と汁物を事業所で調理している。鍋パーティや焼き肉をしたり、恵方巻などの季節料理を楽しんでいる。畑で収穫したトマトや枝豆などが食卓に上がることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状況に合わせて、摂取量、形態、食器、時間等を考慮して、過不足の無いように提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人の状況に合わせて口腔ケアをs手織り、不足なところは介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握して出来る限りトイレでの排泄が出来る様支援している。	個人記録に排泄状況を記録し、立位が可能であれば二人介助で対応しながら日中はトイレでの排泄を支援している。時間帯や身体状況に応じてベッド上で排泄用品を交換することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動などを取り入れたり、寝起きに冷水や牛乳を飲むとか。主治医と相談して便秘薬を処方してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その日の中で出来るだけ希望に添う様にしている。	火曜日、金曜日の午前から午後にかけて、同一フロアの元のデイサービスの浴室を利用して入浴を行っている。入浴を拒む場合は、曜日を変えて事業所の浴室で入浴支援をしている。同性介助の希望にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やライフスタイルに合わせている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの処方箋は、何時でも目の届く場所があり、処方のたびに確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味、嗜好等を考慮して可能な限り援助して楽しんでいて抱いている。		

グループホーム春光

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園やコンビニは行ける様になってが、お出かけと言うほどの外出はできていない。	事業所周辺を散歩したり、コンビニエンスストアに買い物に出かけている。近くの公園での花見やコンサートも楽しんでいる。新年度は短時間でドライブなど、外出する機会を少しずつ増やしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症で重度の方が多くご家族の希望も有って、個人で現金を持っている方は居ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は使用可能だが、耳が遠くて聞こえなかったりリモートを理解できない。1名が毎日手紙を書いて、家族や知人とやり取りをしている。1名が携帯電話を所持して、自由に使っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁に大きな絵を貼ったり写真を貼ったりしています。中庭にバードテーブルがあり、スズメが集まってくるのを座って見れるいすがります	対面式キッチンを備えた食堂と居間を中心に居室が配置された造りで、大きな窓に囲まれた室内には明るい光が注いでいる。利用者と一緒に制作した季節の壁面装飾もあり、家庭的な温もりが感じられる。居間の窓から花壇や畑を見ながら季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルが2か所にあり、テレビも2か所、どこでも自由に過ごせます		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、個人の好みで自由に配置してもらっています。	ベッドが備え付けられた居室に、使い慣れたタンスや好きな縫いぐるみ、小物類も多く持ち込まれており自宅のような雰囲気が感じられる。壁には家族や動物の写真、職員からのプレゼントカードなどが綺麗に飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーになっており、安全性に配慮されている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム春光

作成日：令和 6年 4月 8日

市町村受理日：令和 6年 4月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	感染症対策の為、運営推進会議を開催できていない。	2ヶ月ごとの対面による開催を行う。	一年間の、実施予定を立て、計画的に開催し、参加者に興味を持ってもらえるような会議にしたい。	1年
2	23	センター方式のアセスメントシートを作成しているとあるが、記載が少ない	アセスメントをしっかり取り、職員全員でアセスメントシートを作り上げる。	[B-2][B-3]シートを重点とした、アセスメントシートの作成を作る。日頃の生活の中から拾い上げる。	1年
3	26	介護計画のモニタリングの欄を活用できていない、見直し時の会議録も作成されていない。日々の記録は計画目標に添った記録が行えていない。	毎月、及び計画見直し時のモニタリングの実施と会議録の作成を行う事。日々の記録は計画目標の番号などを記入し支援内容や利用者の様子を記載する。	モニタリングやアセスメントで得た情報を生かししっかりと記録を残し次の介護計画に活かす。利用者の様子が見える介護計画を作る。	1年
4	30	通院分の受診記録を作成していない。	往診、通院共に受診内容を明確にする。	受診の日時、内容が明確な記録を作成する。	3ヶ月
5	35	コロナ、インフルエンザの感染で予定していた避難訓練が中止になり、1回しか行えていない。救命救急訓練も受講出来ていない。地震、火災以外の災害に対する対応もできなかった。	年2回の避難訓練。救命救急の受講、地震発生時の初期対応や危険個所の有無、ケア場面別の対応の確認などを行うようにする。	避難訓練は毎年2回行っているの、特別な事がない限り行える。救命救急は、消防署に問い合わせ実施する。その他の対応については今後の研修などでやって行いたい。	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。